

第13回 武蔵野市男女共同参画推進市民会議（第2期）会議録

日 時	平成22年9月15日（水） 午後7時～9時
場 所	武蔵野商工会館 第1会議室
出席者 （敬称略）	委 員・・・栗原毅、作部径子、千田有紀（副委員長）、高田素子（委員長）、 内藤博子、山田史野 事務局・・・市民協働推進課男女共同参画担当職員
議 題	1 意見書の作成について（最終回） 2 その他
議事要旨	<p><事務局からの発言></p> <p>■ 昨年9月に第1回会議を開催し、本日最終回の第13回目となる。 委員長を中心にまとめた意見書を確認・修正の上、市長に提出する。 市は、第五期基本構想・長期計画に向けて策定作業が始まっており、この市民会議の委員の中から、策定委員会の市民委員としても参加していただいている。市の一番大きな計画なので、男女共同参画の視点が入った計画となるよう担当としてできることをやっていきたい。パブリックコメントやワークショップなど、機会があれば皆さんも参加してほしい。</p> <p>1、意見書の作成について、「武蔵野市男女共同参画推進市民会議（第2期）意見書（案）」の内容を確認し、意見交換を行った。</p> <p>第1章 意見書作成にあたっての考え方</p> <p><各委員からの発言></p> <p>■ 初めて市民会議に参加したが、提言したことなどが実際のアクションに結びつかない感がある。この市民会議の位置づけというのは単に出てきた書類を見て確認するというのであれば少し疑問がある。 もし進捗のフォローをすることが一番のミッションであれば、少しやり方が違うのではないかと思う。</p> <p>■ もし、計画がきちんと実施されているかどうかをみるのが目的ならば、多くの資料を確認するなどの作業から入るのかと思ったが、そうではなかった。集約された定性的な「継続」や「新規」という議論だけで進捗管理ができるかという、多分それはできないと思う。</p> <p>■ 民間的な発想かもしれないが、成果物というか、提言書を出すのであれば、そのために何をするかプランだてて進めたほうがより有効だ。</p> <p>■ 私も市民会議の委員は初めてだったので、このような形なのかと思ってきた</p>

し、私なりに自分の抱えていた問題を提起することができ、すごく意義はあった。ただ、市民会議の位置づけと言われると、確かにおっしゃるとおりかなという部分もある。

- もう一步踏み込んだ形があったほうがいいのではないか。
- こういう市民会議ができたこと自体を評価していた。こういう市民会議がつくられて、これがほかの計画にも展開していけばいいと思っている。
- 例えば計画づくりに、市民や市民会議の中から2人ぐらい入ってデータを確認しながら議論に加わり、実際に自分たちが提言した内容が現実の計画の中に反映されるか、あるいは反映されないとしたら、どういう状況があって難しいのかななどを確認して情報を発信していく。そういう組み立てを今後はつくっていく必要がある。
- 今回フォローアップなので、皆のイメージが違ったというのは何となくわかるが、常設化されて何回か繰り返し、長いタイムスパンで見ると動いていくのではないかという希望を持っている。

<委員長からの発言>

- 前回の市民会議報告書に基づいて第二次男女共同参画計画ができ、この計画に基づいてアクションプランができた。5年後の計画のための市民会議で、計画を立てるのではなく、計画の進捗状況を見ながら計画が実施されるよう検討する会議となる。
- 計画をつくる時点で、市民の行政ニーズが何であるかが把握できないまま立案されたところがある。行政ニーズ、現状というのは絶えずチェックしていかなければいけない。
- 次回からは庁内の推進会議とこの市民会議が連携しながらすすめられる仕組みにするよう提言する。
- 長期計画とか関連計画との整合性などもおこなってほしい。できれば進捗状況の評価という最低限のものは、フォーマットのなものでおこない、その後どうするかをもう少し話し合っていければいい。
- 計画の段階で委員の方に、「データがないから武蔵野市で男女共同参画の問題は何なのかわからない」といわれていた。データを収集して次の計画に盛り込むというのは大きな問題だ。
- この市民会議を、女性の参画、男性の参画へのステップであったり、市の施策を知る入り口や人と人がつながる場のように考え、ここから始めてほしい。

第2章 基本目標ごとの進捗状況の評価と今後の課題

基本目標Ⅰ 男女がともに仕事と家庭、地域生活の調和を図ることのできる環境の

整備

<委員長からの発言>

- 第2章からは「進捗状況の点検」を入れ、肯定的な評価もしている。
- 「学童クラブと地域子ども館あそべえとの連携強化を進める方向で検討されることになった」では足りないだろうか。
- 一時保育を勘案した形で、保育ニーズの対応を進めてほしいという内容を入れる。

<各委員からの発言>

- 学童保育に関しては、土曜日開所や時間延長などは書かれていないが、そういうことも含めて放課後施策推進協議会で検討するというのが子どもプランの組み立てなのかとも思う。そうであれば、子どもプランの中の、「(仮称) 放課後施策推進協議会」を早急に設置して、その中で「時間延長、土曜開所、利用年齢制限の問題等について検討されることを要望します」という表現でどうだろうか。
- 経済状況の悪化という表現があるが、市民の経済状況の悪化ということを確認できているのかわからないので、「保育ニーズの高まりの中で」という表現はどうか。女性が外で働きたいというニーズが高まっているということもあると思うので、そういう表現にしたほうがいいのではないか。
- 7ページの「自助・共助の視点」とあるが、助け合いの視点のことを言っているので、「共助の視点」という表現の方が適切だと思う。
- コラムに、足立区がURと提携して、保育ママさん数人のグループの家賃を半分持って、保育ママさんを増やしているという記事と、練馬区で簡易施設を使って区が一時的な認証保育所をつくったという記事を入れるといいのではないか。
- 足立区と練馬区の記事をコラムに掲載する案は、内容を確認した上で評価できると確認ができればいいだろうが、その時間的余裕がなさそうだ。
- プレイスは地下2階に青少年のためのフロアをつくるが、子ども施策の取り組みの場所になるので、子育て支援ネットワークに入れたのだろう。ヒューマン・ネットワークセンターは男女共同参画の拠点であるのに認知されていない。これからは、子育てのネットワークの中にヒューマン・ネットワークセンターも入れていき、市の男女共同参画施策を進める拠点としての活動を強めていくべきだろう。

<委員長からの発言>

- にっぽん子育て応援宣言は公的なものではなく、日本NPOファザリング・ジャパンの方たちが中心となって、民間と市、自治体も参加して、応援のメッセージをホームページ上に書いている。

- 市長が子育て応援都市の、「市の次世代育成支援行動計画策定を好機ととらえ、『にっぽん子育て応援宣言』などのメッセージを表明していくことも、大きな選択肢のひとつと考えられる」とした。

基本目標Ⅱ 男女が互いの性と人権を尊重し、心身ともに健康で自立した生き方を選択できるしくみづくり

<委員長からの発言>

- 進捗状況のところを大幅に変えている。「女性総合相談窓口が21年に新設された。女性がライフステージにおいて直面するさまざまな悩みを女性相談員が女性の視点に立って、解決のために支援する窓口としての期待は大きい。」とし、意義をここで打ち出している。

また、「民間シェルターへの支援策については、現在、検討の段階であるが、DV防止基本計画の策定の中で、実施に向けて具体的検討がおこなわれることを期待する。」とした。

<各委員からの発言>

- DV防止基本計画策定に伴うネットワーク形成は、女性の相談もあわせてネットワークとするのか、それともDVのことと分けて検討を進めたほうがいいのか。

<委員長からの発言>

- 「総合」というのは、いろんなという意味で、全くDVと関係ない悩みを話しているうちに、結局DVが原因だったということもある。

<各委員からの発言>

- DV相談と銘打ってなくても、いろいろなところと連携し、ネットワークをつくり、適切な相談につなげていけるような形がいい。例えばヒューマン・ネットワークセンターは今、専門職がないのでできない状況だが、相談を持ち込まれたら、庁内のどこに相談をつないでいったらいいのか、どんな人のサポートを必要とするのか、DVの場合もちろんだが、DVでない場合もつないでいく必要がある。

<委員長からの発言>

- 庁内外の支援のネットワークにつながるようにしないと、問題を聞いても解決されない。
- 女性相談はカウンセリングも含めるが、カウンセリングだけに終わらず、解決

とか自立へ向けなければ相談とは言えない。

<各委員からの発言>

- スーパーバイズのことをどこかに入れたい。
- 「相談者の自立支援の視点に立った支援をきちんと行うために相談員を支えるネットワークやスーパーバイズの体制づくりが今後の課題である。」としてはどうか。

基本目標Ⅲ 男女平等意識の浸透と自立意識の確立

<委員長からの発言>

- 17ページの「ネットワークセンターによる教育機関への出前講座は、平成22年度に「検討」し、23年度「実施」とあるが、アクションプランに即した実現を望む」としたが、これはどうなのか。

<各委員からの発言>

- 教育の現場に男女共同参画のことを入れていくことは必要だし、ネットワークセンターはその拠点施設だから、何らかのかかわりを学校教育に関して持つていくというのはいいが、いきなりではなく、出前講座も含めて男女共同参画の取り組みに関して教育委員会と検討を始める、という流れで持つていくのがいいと思う。
- 学校教育で教科を担当している先生の過重な負担があるので、やりきれない部分を分類してやっていくことは必要だと思う。特に性教育やエイズ、DVなどは大学では分業している。
- 個人的にはモデル校という発想があまり好きではない。どこかだけすごくてこ入れをして、そこだけすぐれた男女平等教育のモデルが行われて、それがほかに波及することを期待するという意味だろうが、そのやり方がほんとうにいいのかなと思う。
- 1校きちんとやってみて、その成果を発展させるというような話だ。どこまでやってどのように変わるのかを検証するということだと思う。
- 性教育の部分では、性的マイノリティが入った。
- 一般的には「発達段階に応じた」という言われ方をして、それが年相応の性教育という組み立てになっているわけだが、それが実際には遅い。
- 「どのように実施するかが重要であり、適切な時期に女子だけでなく、男子も学ぶ意義は大きい」。という表現はどうか。
- 18ページの「国際的理解を深めるための取り組み（継続）」のところで、アクションプランには「先進国の取り組みを学ぶ」と書いてあるが、途上国の人た

ちが置かれている現状もあわせて男女共同参画ということを学ぶ必要がある。

基本目標Ⅳ 男女共同参画の推進体制の整備

<委員長からの発言>

- リーダーシップ力育成のための研修に関しては、「民間のノウハウを積極的に導入するとともに、外部専門家のコンサルティングなどの登用も検討する」という形で入れたい。22ページの「ネットワークセンターの講座の受講生や『まなこ』の編集委員の中から委員を推薦していくなど、人材育成の仕組みの整備も課題である」、これは人材バンクのようなものもあると言っていたが、なかなか難しい。

<各委員からの発言>

- ヒューマン・ネットワークセンターに関しては、事業のわりに予算が少ない。何かやろうと思っても予算がない。
- たとえば、「幼児をもつ母親のための講座」を5回やるが、保育の自己負担分を無料化したらその分の予算がどこにもない。
- 母親が21人で、子供は18人預かる。ひまわりママさんが11人来るので、5回で12万円。
- すごく人気があって、ウェイティングリストがある。
- ヒューマン・ネットワークセンターには保育の場所がない。
- 市長に要望も出している。

<事務局からの発言>

- 今年予算は、市の予算から組み替えて、事業費はかなりアップしている。ただ、それ以上に事業が充実しているということだ。保育料については、当初そこまでは想定していないところがお互いにあったので、今回は市の予算で何とかやりくりし、補てんするという事になっている。

<委員長からの発言>

- 設置条例等によるセンターの位置づけの必要というのは、ネットワークセンターが男女共同参画の拠点として事業をやるわけだから、全庁的な視点で位置づけをしないと予算が来ない。

<各委員からの発言>

- 今の場所では位置づけはできない。
- 移転に向けて、一刻も早く話し合いを始めたほうがいい。

- コミセンより人件費は低い。

<事務局からの発言>

- 人件費の単価は基本的には同じだが、コミセンには管理運営委託費と事業費、指定管理者としての委託費用と活動補助金の両方がある。あまり比較はできないと思うし、それほど差はないと思う。

<各委員からの発言>

- コミセンと比べるよりは、M I Aとか子ども協会と比べてほしいと思う。
- 支出にいろいろな種類はあるだろうが、例えば子ども協会は一般財団法人でM I Aが公益財団法人。これはどういう位置づけなのか。
- ネットワークセンターもある意味、社会教育施設というふうに位置づけられれば、社会教育施策の一環を担うための、それなりの予算がつくのではないか。

<事務局からの発言>

- M I Aは平成元年にできて22年だが、当初は普通の任意団体だった。
- 財団化に向けていろいろ動いた時期もあるようだが、それからいろいろ活動しながらだんだんと広げて、昨年財団化が実現した。

<委員長からの発言>

- ミッションの見直しをし、ある意味ではそこからネットワークセンターの位置づけや職員体制も改善されなくてはいけない。市と協議していかなければいけない。

<各委員からの発言>

- 報告書を直す必要はないが、男女共同参画の推進団体とセンターが何の連携もない。その人たちは5万円の補助金をもらって、年に1回事業をしているようだが、その情報も全く入ってこない。
- 年度の初めに申告する人を全員集めて、ネットワークセンターの協議会に入ってもらおうとか、ネットワークセンターと密に連絡をとったり、各団体の事業のチラシをヒューマン・ネットワークセンターに置いたりして連携する。

<事務局からの発言>

- 会議室は、どんな団体でも使用できるという形だったが、きちんとやっぴいこうということで基準を整理し、市の登録推進団体に登録している団体は、あえてまた登録をしなくても使えるということにした。

- 今の登録団体に、来年度の登録を更新するかという通知をするのは4月に入ってからだが、ヒューマンの総会が4月中下旬なので、タイミングとして、1回登録した団体に、また集まってもらって、ヒューマンの運営協議会に参加してくださいというのはなかなかできない。
- 推進登録団体がもっと活性化して、ほんとうに男女共同参画の活動をして、ヒューマンとの結びつきを強くしていくのが課題だ。

<各委員からの発言>

- お金のことは必要だから入れたほうがいいと思う。これだけ拡充すると言っているのだから、拡充するためにはその財源が必要だ。
- ほかのことで予算的なことは触れていない。
- こちらがわかっている問題点として提示することは別にいいと思う。

<委員長からの発言>

- 委託事業でありながら、今は市の事業をやっているという部分があるので、正当な委託の状況をもう一回つくり直すことが必要かも知れない。
- 拠点として位置づけられた後、まだ関係ができていないわけで、そういう意味で、新たな関係をつくる。
- センターがすべき事業を精査していきながら、そこに見合ったお金を入れる。あとはセンターを動かす人に対してのお金というのは大切だ。それも私たちの意見だから入れておく。
『まなこ』は、ほんとうは年2回ぐらいの発行でもいい。今回、本当にすばらしい『まなこ』ができた。

<各委員からの発言>

- 引き続き編集長をやるのは困難と思われると書いてある。そうなのか。
- 職員を増やしていただくとか。

<委員長からの発言>

- この事業量から見ると、絶対無理だと思う。今度DV計画もつくらなければならないし、『まなこ』だけというわけにはいかない。
- ライター入門講座と『まなこ』をどういうふうに連携させるか課題だ。

<事務局からの発言>

- 今日いただいたご意見と、今後ご意見をいただき、委員長と事務局で調整し、市の各担当にも事実確認をして体裁を整える。10月の下旬から11月の初めぐ

らいに、正式に市長に提出する。委員長、副委員長、あと委員の皆さんもお時間があればご同席いただきたい。調整をしてご連絡する。

一年間ご苦労様でした。

<委員長からの発言>

■ これを機会にネットワークが広がり、他の分野にも関心を持って、いろいろなところで活躍していただければいいなと思っている。

長い間、本当にありがとうございました。

— 以上 —